殖蓮消防組第弐部喞筒新調記念碑

明治二十七年（一八九四年）政府は「消防組規則」を制定し、全国の市町村に公設の消防組を組織することを進めました。下植木村では、地域住民が寄付を募り、消防ポンプ（喞筒）を新調しました。これを記念し、その心意気を後世まで伝えようと協力者の名前を刻んだものがこの石碑です。

東日本大震災から十五年を経た本年、「自分たちの暮らしと仕事を守るために力を合わせた証」であるこの石碑を、多くの人の目に触れる場所に据えなおし、防災の原点である火災に対する自助共助の精神を伝える記念とすると共に、地域住民の防災意識の向上に資することを目的にこれを移設するものです。

令和八年五月三十日

記念碑移設実行委員会

殖蓮消防組第貳部喞筒新調有志者

一金 二円也　鹿沼善七
一金 拾五円也　下城連三
一金 拾円也　井下久馬
一金 七円也　塩地源蔵
一金 五円也　大木岡三郎
一金 貳拾五円也　下城潤一郎
一金 拾五円也　古沢茂八
一金 拾円也　井下久馬
一金 七円也　塩地源蔵
一金 五円也　柳澤高蔵
一金 貳拾円也　大澤宇市
一金 参円也　板垣孝平
一金 四円也　石原金三郎
一金 参円也　下城雄素
一金 参円也　柳澤直蔵
一金 参円也　根岸真次郎
一金 参円也　福田勝次郎
一金 参円也　大木茂太郎
一金 参円也　矢内鳥作
一金 参円也　井下三作
一金 参円也　井下幸平
一金 参円也　岸井秀蔵
一金 参円也　柳沢常吉
一金 参円也　小林金次郎
一金 参円也　大谷春馬
一金 壱円五拾銭　飯島澄三
一金 壱円也　大木保蔵
一金 参円也　根岸兵八
一金 参円也　島田治作
一金 参円也　石原捷三郎
一金 参円也　板垣時太郎
一金 参円也　石原金三郎
一金 参円也　下城雄素
一金 参円也　根岸真次郎
一金 参円也　福田勝次郎
一金 参円也　大木茂太郎
一金 参円也　矢内鳥作
一金 参円也　板垣金四郎
一金 参円也　柳沢直術
一金 参円也　下城潤蔵
一金 参円也　下城兼吉
一金 壱円也　岸井馬太郎
一金 参円也　荻原久次
一金 参円也　下城潤蔵
一金 参円也　山岡五右衛門
一金 参円也　鹿沼清七
一金 参円也　井下仁平次
一金 参円也　石原きん
一金 参円也　石原豊之助
一金 参円也　尾内幸次郎
一金 参円也　小林民衛
一金 参円也　石原兵蔵三
一金 参円也　蓮場清吉

貳部発起者

一金 七円也　部頭　飯島新三郎
一金 六円也　小頭　尾内亀蔵
一金 拾二円也　下城栄作
一金 五円也　仮原彦三郎
一金 参円也　小山政之条
一金 参円也　石原豊之助
一金 参円也　尾内幸次郎
一金 参円也　小林民衛
一金 参円也　石原兵蔵三
一金 参円也　蓮場清吉
一金 参円也　柳澤五郎
一金 参円也　下城竹次郎
一金 参円也　井下とく
一金 参円也　井下熊三郎
一金 参円也　星野文吉

明治三十三年一月

解説

明治初期の日本では、江戸時代からの町火消などを引き継いだ消防体制が各地に存在していましたが、地域ごとに組織や名称がまちまちで統一性に欠けていました。藩政期の慣行を踏まえつつ、明治政府は都市部から順に近代的な消防制度を整え、地方の町村でも警察の指導を受けながら「自身番」「私設消防組」「義勇消防組」などが徐々に形成されていきます。

この流れを全国的に統一するため、明治二十七年に勅令「消防組規則」を制定し、消防組は府県知事の警察権のもとに置かれ、市町村が費用を負担する公的組織として位置づけられました。下植木村を含む佐位郡の村々も、この制度化の過程で、従来の村内の火消し体制を「消防組」として再編したとみられます。

一八八九年、明治二十二年に上植木村・下植木村・八寸村が合併し殖蓮村が成立します。明治三十七年時点では、このうち旧下植木村の区域は中里・宿・中・東・書上の五区に区分されていました。消防組もこの区割りを意識しながら、各区から組員を選出し、区ごとに火の番や夜回りの当番を担わせる体制が取られたと考えられます。

組員は農民や若者層を中心とする半ば義勇的な構成で、平時は農作業に従事し、火災発生時に半鐘や拍子木の合図で集合します。装備ははしご、鳶口、水桶、竹竿、のちには手押しポンプなど、比較的簡素なものでした。

下植木村周辺は粕川や用水路、溜池、井戸など水利に恵まれており、消防組はこうした水源を把握し、火災時の取水点として活用しました。養蚕農家の土蔵や寺社、名主層の大型家屋は村の資産として重要であり、これらを守るために、消防組は夜警や防火指導、正月や祭礼時の「火の用心」の声かけなど、日常的な予防活動も行っていたと推測されます。

明治時代の佐位郡下植木村消防組は、江戸以来の「村人自らが村を守る」という共同体の精神と、近代国家が進めた消防制度の整備とを結ぶ架け橋でした。農業と養蚕に根ざした地域社会の中で、村人が互いの家と財産を守るために組織した消防組は、現在の消防団や自主防災組織へと連なる地域防災の原点といえます。

監修　殖蓮史談会

宮前都市区画整理事業に伴い、東本町にあった詰所が現在の場所に新築移転となりました。火の見櫓と一緒に記念碑と警の文字が入った鬼瓦も足元にひっそりと据え置かれました。

台座と共に外された石碑裏側

外されたばかりの石碑表側

詰所建物の北側、道路に面して移設しました。説明板も取り付けました。